

盛岡かわまちミュージアム



平成22年3月

目 次

計画の目的と位置づけ	1
1. 計画の全体像	2
2. かわづくりとまちづくりが果たすべき役割	4
3. かわまちづくり計画の目標像・基本方針(案)	8
4. 施策方針	10
5. 役割分担とスケジュール	12
(参考)リーディングプランイメージ	14
施策方針の展開イメージ	20
今後の進め方について	24
盛岡地区かわまちづくり懇談会	26

計画の目的と位置づけ

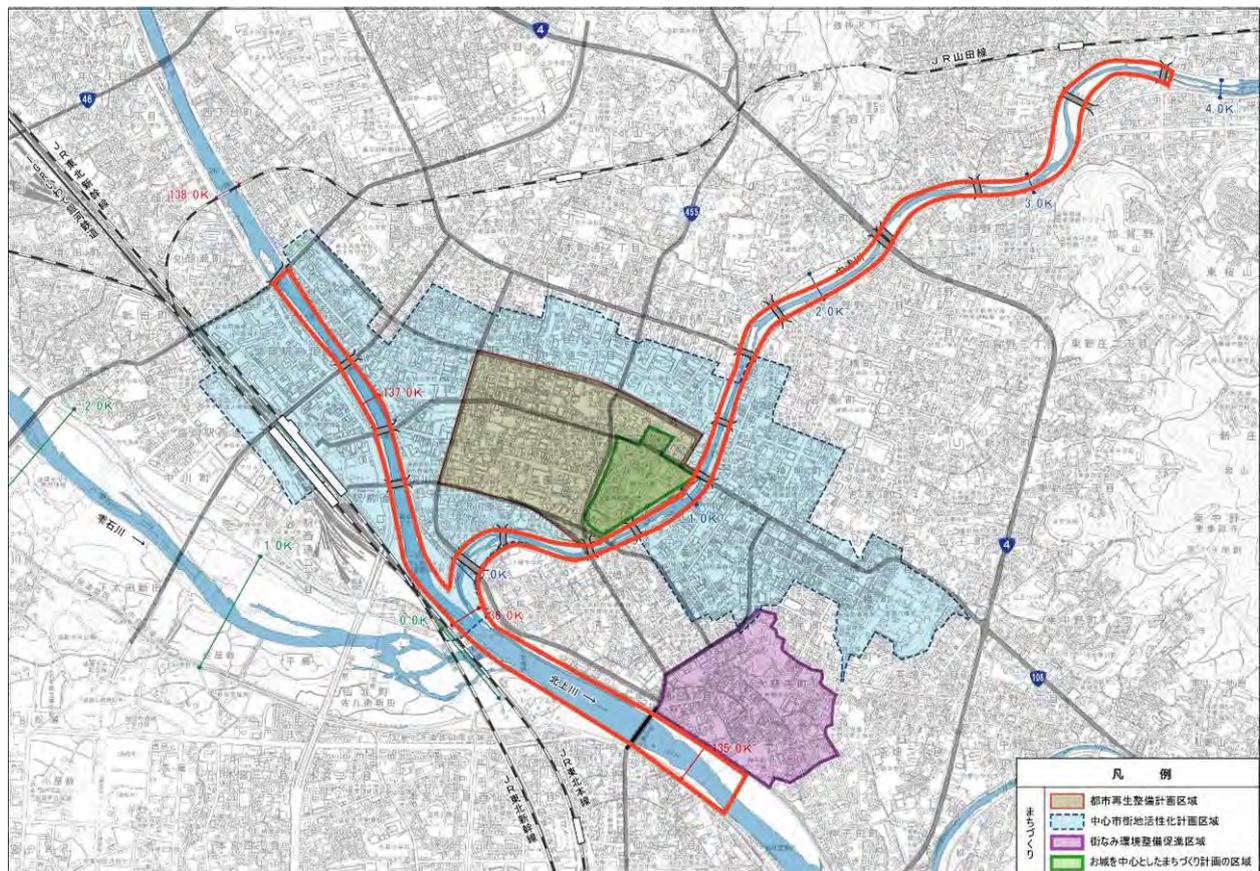
「盛岡地区かわまちづくり計画(案)」は、以下に示す河川区域内と沿川のまちづくり計画区域、及び沿川地域を検討範囲とし、まちづくりの視点、かわづくりの視点の双方から、「まち」「かわ」の望ましい姿、整備のあり方、利用の方向性についてとりまとめたものです。

今後は広く市民からの意見を集約、反映することを基本に、継続的に計画策定、実行、点検、見直しを繰り返すマネジメントサイクルにより、柔軟に発展する計画づくりを進めます。

主に事業主体となる盛岡市、それを支援する国土交通省は、地域住民との協働による事業推進のための情報共有を常に意識し、「まち」「かわ」「ひと」がそれぞれ連携することで地域の持つ優れた歴史・文化・自然資源を活かし、魅力あるまちづくり、水辺づくりに寄与することを目指します。

【かわまちづくり計画検討範囲】

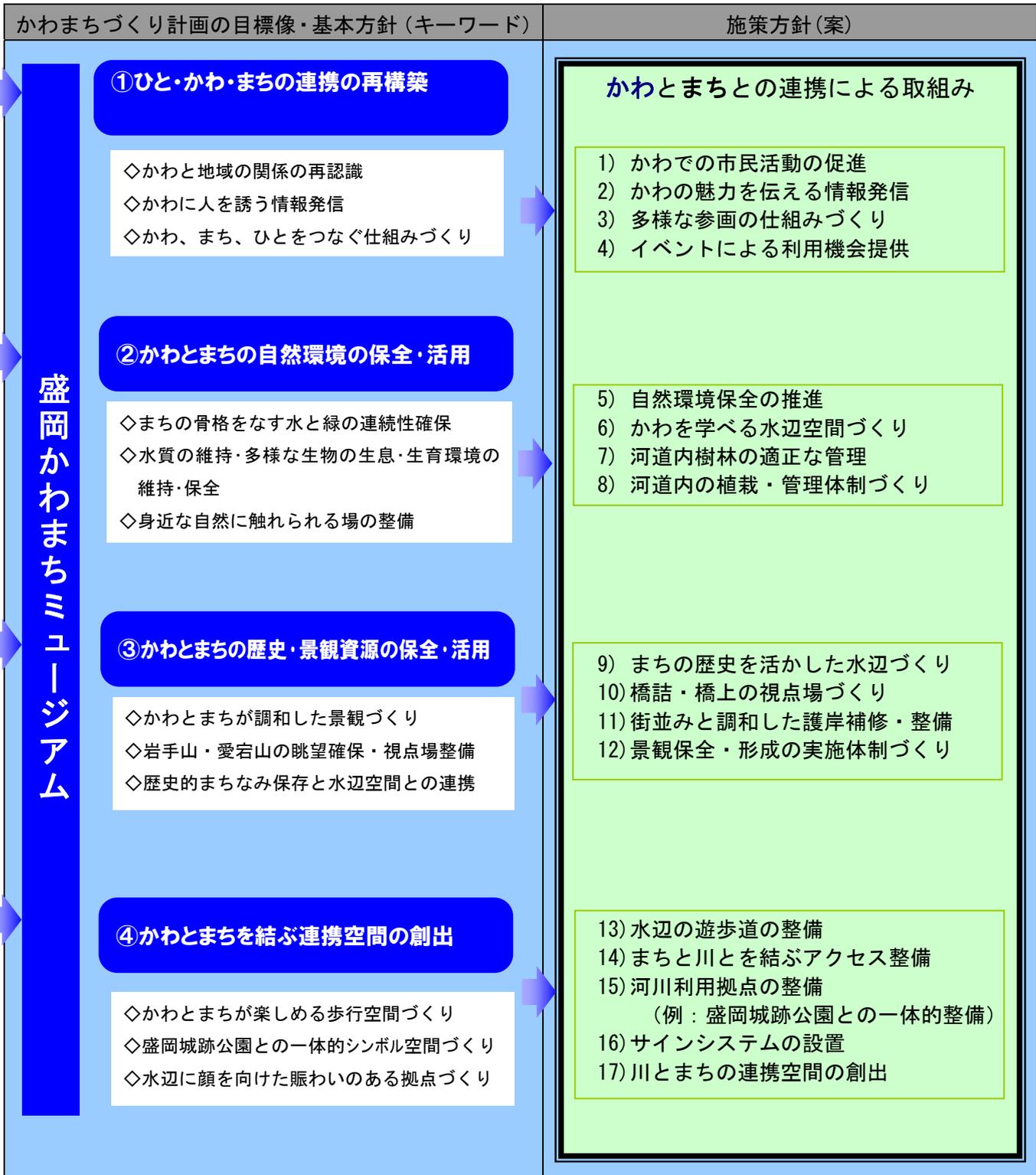
 北上川：夕顔瀬橋～明治橋下流 中津川：浅岸橋～合流点



かわまちづくり計画区域は、対象河川区間沿川地域及び、盛岡市のまちづくり計画（都市再生整備計画・中心市街地・街並み環境整備・お城を中心としたまちづくり）を含む区域とする。

1. 計画の全体像

かわとまちの現状	かわづくりとまちづくりが果たすべき役割
<p>まちづくりの方向性・まちづくり計画</p> <p>「人々が集まり・人にやさしい・世界に通じる元気なまち盛岡」(盛岡市総合計画)</p> <p>「歩いて楽しむまち 人と人、人と文化、人と自然の観光交流都市をめざして」(盛岡市観光推進計画)</p> <p>「潤いと彩りのあるまちの風景づくり」(盛岡市景観計画)</p> <p>地域資源を活かしたまちづくり計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ○都市再生整備計画 ○盛岡市中心市街地活性化基本計画 ○お城を中心としたまちづくり計画 ○街並み環境整備計画 ○ブランド推進計画 	<p>■多様なニーズと関わり、情報発信</p> <p>○かわづくりとまちづくりの連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光振興を支援する河川整備、河川利用の推進 ・地域の活動の場としての河川空間の提供 <p>○市民の意見を反映するかわづくり・まちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民参画の多様化への対応 ・子供とかわとの関わりの構築 ・情報発信基地の整備
<p>まちの中の自然環境・身近な水辺空間・景観軸・歴史・文化軸</p> <ul style="list-style-type: none"> ○盛岡市中心市街地を貫流する貴重な水辺空間 ○都市のシンボル性・中心性を有する盛岡城跡公園 ○市民の身近な森としての愛宕山・桜山 ○環境保護地区に指定されている中津川 ○岩手山・愛宕山の眺望と市街地を流れる河川景観 ○サケが遡上し産卵する中津川 ○盛岡城築城、盛岡市のまちづくりとともに育んだ北上川・中津川の歴史・文化 ○鉦屋町・紺屋町に見られる歴史的街並み 	<p>■貴重な自然環境</p> <p>○河川内の豊かな自然環境の維持・保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河道内樹林の適正管理 ・水質の維持・多様な生物が生息・生育可能な場の保全 <p>○身近な水辺に触れられる場の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・散策路、親水空間の形成 <p>○水辺の緑の保全と連続性の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・盛岡らしさを水と緑のシンボル軸の維持 ・生物の生息・生育空間としての連続性の確保 <p>○生活・暮らしの中の緑、自然環境の保全・維持</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境保護地区における身近な緑地の保全 ・水辺レクリエーションネットワークの形成
<p>まちの中の地域コミュニティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○盛岡市人口約300千人のうち約30%を占める。減少傾向から横ばい傾向。少子高齢化の傾向 ○中津川を挟んで河北・河南地区を構成し、それぞれ桜城・仁王・山岸、杜陵・大慈寺・城南・加賀野地区で構成される ○中津川上流の山岸・加賀野地区は身近な緑地に隣接した都市近郊市街地を形成 ○北上川沿川は人口が増加傾向にあり、盛岡駅前の桜城地区は盛岡市の中心市街地を形成 ○計画区域区内の小中高校は14校に及ぶ 	<p>■地域固有の歴史・景観資源</p> <p>○地域とかわとのつながりの再構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・舟橋跡など、かわと生活との関わりのある地物の保全・活用 <p>○良好な河川景観の保全・形成(景観計画との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩手山等の眺望の確保、視点場の整備 ・街並みに調和した護岸、散策路等の修景整備 <p>○歴史・文化資源の保全・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的まちなみの保全と水辺との連続性 ・歴史・文化的資源の保全と連携 <p>○かわを活かした景観まちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川景観保全地域・眺望景観保全地域の適正な運用
<p>まちの中のネットワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ○盛岡市の玄関口盛岡駅から観光拠点へのアクセスとしての北上川、中津川の水辺空間 ○「歩いて楽しめるまちなか観光」の推進 ○多様な観光資源を結ぶ散策ルート ○都心循環バス(でんでんむし)の利用者は増加傾向。レンタサイクルの取組み ○中津川三橋(上の橋・中の橋・下の橋)がまちなか動線の重要な結節点 ○北上川・中津川のフットパスによる散策ルートの多様化 	<p>■まちとかわとの一体感・連携空間</p> <p>○沿川まちづくりと協調した水辺空間の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沿川に点在する拠点との一体的水辺空間整備 ・ユニバーサルデザインに配慮した水辺空間整備 ・まちからかわへのアクセス・フットパスの連結 <p>○まちなみの保全・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・盛岡城跡公園と水辺との一体的空間整備 ・水辺に顔を向けた土地利用の推進 <p>○水辺を活かしたまちづくり・賑わいづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・盛岡城跡公園と連続した水辺空間の形成 ・歩行者・自転車道のネットワーク ・「橋」を拠点とした交流の場の形成
<p>まちづくりの中の観光資源・レクリエーションとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年間470万人の観光客 ○観光拠点である盛岡城跡公園、紺屋町界隈との連携 ○中津川で開催される多様なイベントの推進 ○三川合流点水辺プラザのオープンスペース ○観光交流拠点「おでって」からの情報発信 ○「平成の名水百選」である中津川 	<p>■暮らしの中の安全な川づくり・まちづくり</p> <p>○河川管理による安全な川づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低水・高水護岸の補修・管理、樋門・陸閘の機能維持 ・洪水時の巡視点検・復旧、水難事故防止対策 <p>○水害に強いまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川管理者との連携による治水事業の推進 ・避難場所・避難路の確保 <p>○市民への水防意識の啓発・普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洪水ハザードマップによる水防意識の普及 ・防災体制の強化・構築



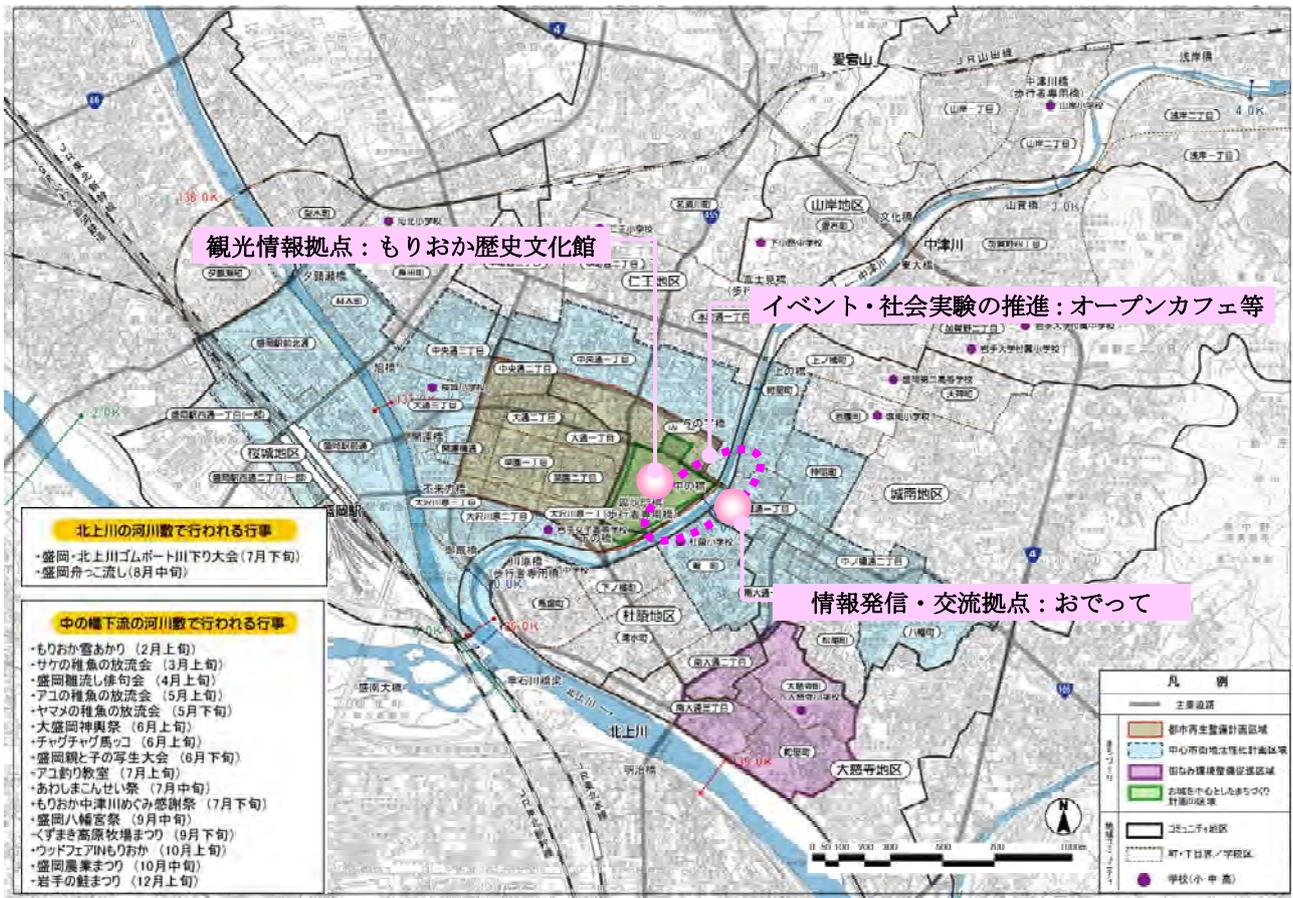
『盛岡かわまちミュージアム』を支える基本的取組みとして、

安全・安心なかわづくり・まちづくり

- ◇市民の安全な暮らしの確保
- ◇護岸等の適正な補修・維持管理の推進
- ◇防災情報の提供の充実・防災体制の強化
- ◇避難場所・避難経路の確保

2. かわづくりとまちづくりが果たすべき役割

(1) 多様なニーズと関わり、情報発信（かわとまちをつなぐ人との連携を強くするために）



盛岡・北上川ゴムボート川下り大会



盛岡舟っこ流し



もりおか中津川めぐみ感謝祭



チャグチャグ馬ッコ

かわまちづくりの実現のためには、市民との連携・協力関係の構築が不可欠です。かわとまちの情報を共有し、また市民から情報発信できる雰囲気づくりが求められます。

【かわとまちが連携することにより】

人と人・人とグループ・活動と活動をむすぶ・つなげる

- ・ 人のつながりを強固にする
- ・ 市民の活動をバックアップする
- ・ 暮らしと心の豊かさをアップする

計画を推進するための人と仕組みづくりの役割

○かわづくりとまちづくりの連携強化

- ・ 観光振興を支援する河川整備、河川利用の推進
- ・ 地域の活動の場としての河川空間の提供

○市民の意見を反映するかわづくり・まちづくり

- ・ 市民参画の多様化への対応
- ・ 情報発信基地との連携

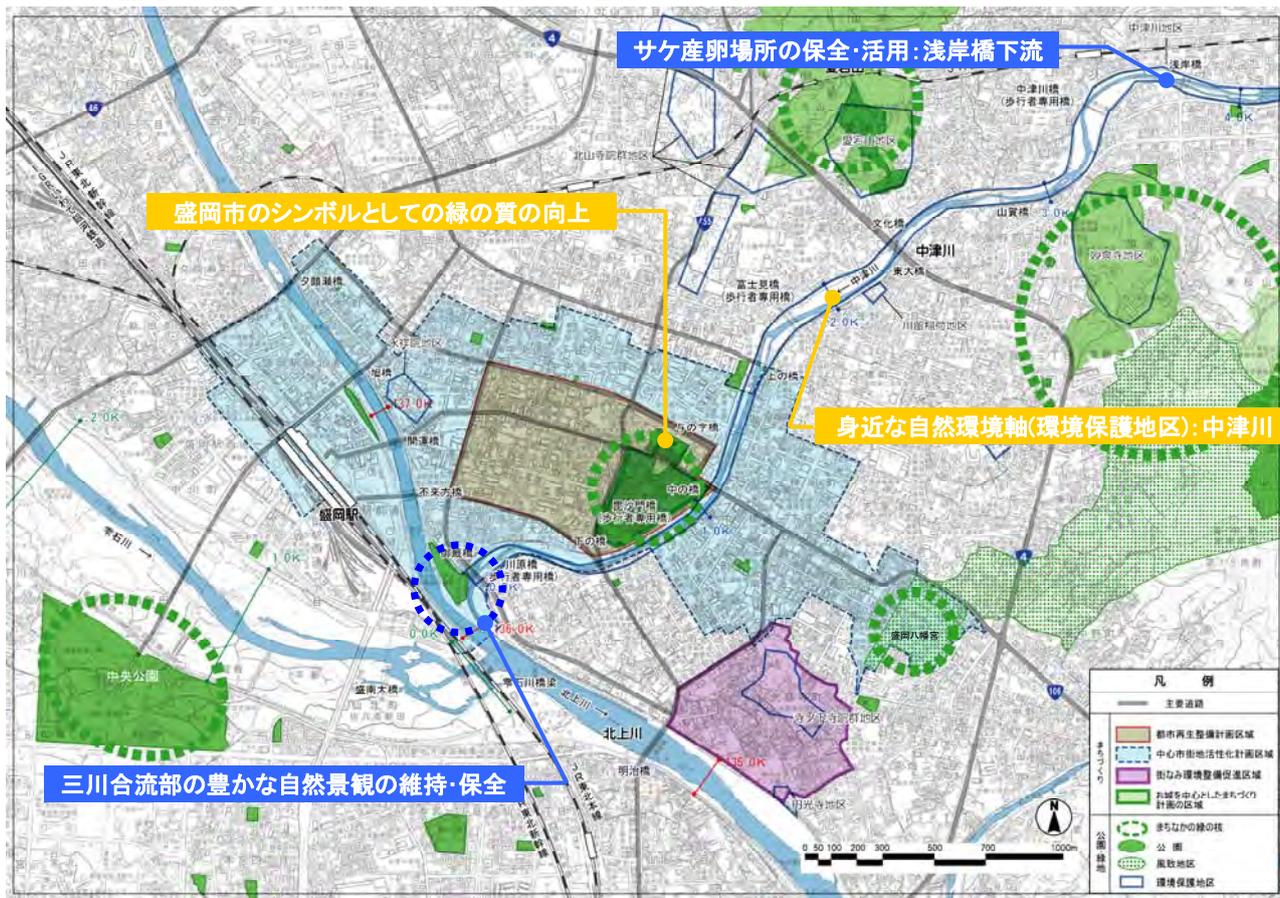
○子供とかわとの関わりの構築

- ・ 環境学習フィールドとしての利用
- ・ 通学路としてフットパスを利用

○NPO、市民による参画

- ・ 活動の場・各種情報の提供、支援
- ・ 清掃活動等日常の川との関わりの構築

(2) 貴重な自然環境（自然に触れる暮らしの魅力を高めるために）



市のシンボル緑地盛岡城公園と中津川



河道内樹林（中津川）



サケの遡上（中津川）

盛岡市の骨格をなす河川空間は、地域住民の暮らしの中で憩いや癒しの場を提供するとともに、多様な生物に触れられる貴重な自然空間として、その保全・活用が求められます。

【かわとまちが連携することにより】

生命を育むかわと自然を知り・守る

- ・ 生命の源をなす水への意識を高める
- ・ 樹林・草地在りなす都市の貴重な自然を守る
- ・ 環境保護地区として保全する

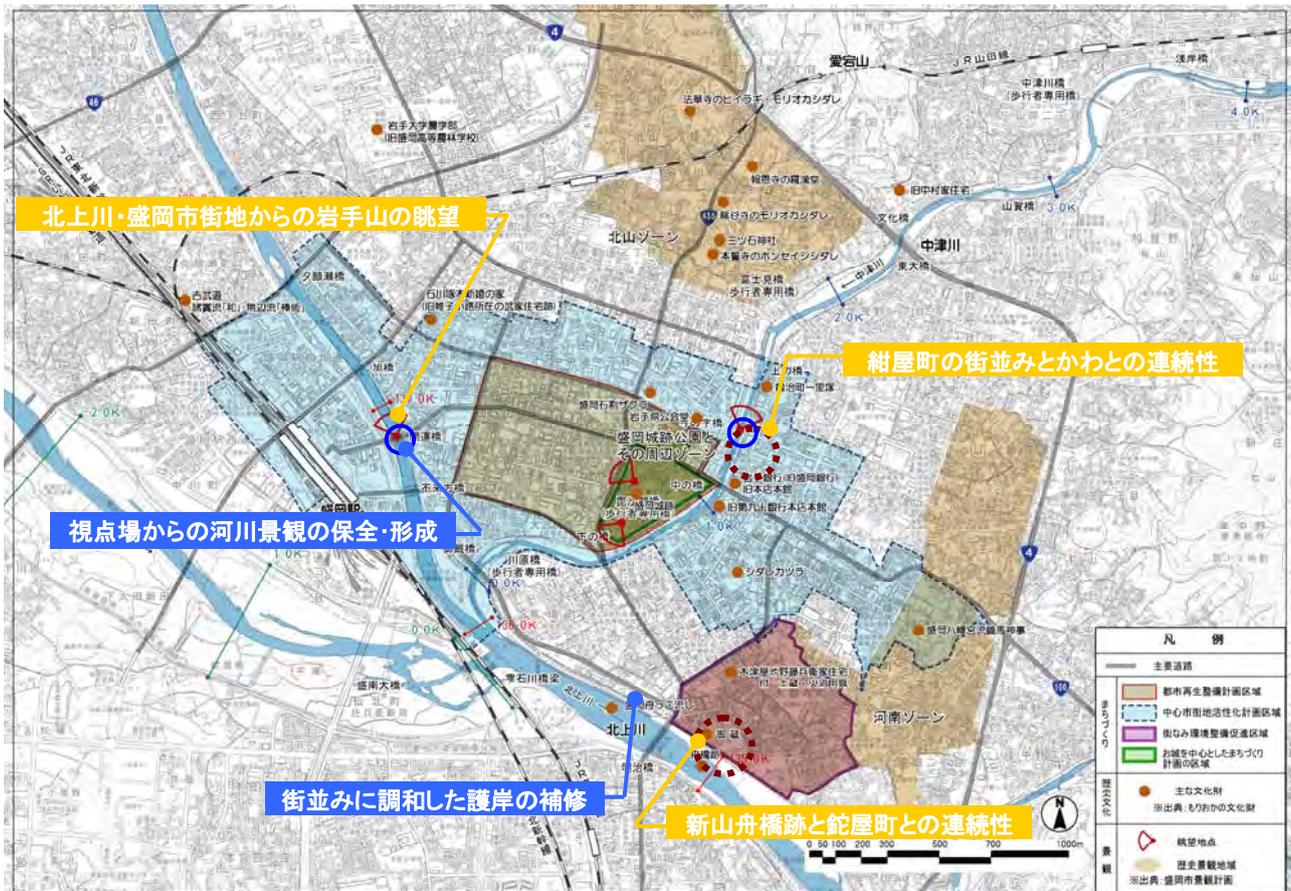
まちが果たすべき役割

- 水辺の緑の保全と連続性の確保
 - ・ 盛岡らしさの象徴としての水と緑軸の維持
 - ・ 生物の生息・生育空間としての連続性の確保
- 生活・暮らしの中の緑、自然環境の保全・維持
 - ・ 水質の維持・監視
 - ・ 環境保護地区の身近な緑地の保護

かわが果たすべき役割

- 河川内の豊かな自然環境の維持・保全
 - ・ 多様な生物が生息・生育可能な場の保全
 - ・ 河道内樹林の適正管理
- 身近な水辺に触れられる場の整備
 - ・ 散策路、親水空間の形成

(3) 地域固有の歴史・景観資源（まちの魅力を高める地域資源を活かすために）



かつての明治橋



北上川からの望む岩手山



中津川から望む愛宕山

古くからの街並みや重厚な石積護岸、点在する歴史的地物等の地域資源、それらと調和した優れた自然景観を保全、活用し、地域との関わりの中で未来に継承することが求められます。

【かわとまちが連携することにより】

郷土の歴史・文化、自然の豊かさを実感し、未来に伝える

- ・ 地域特有の歴史・文化
- ・ かわとまちの調和した景観

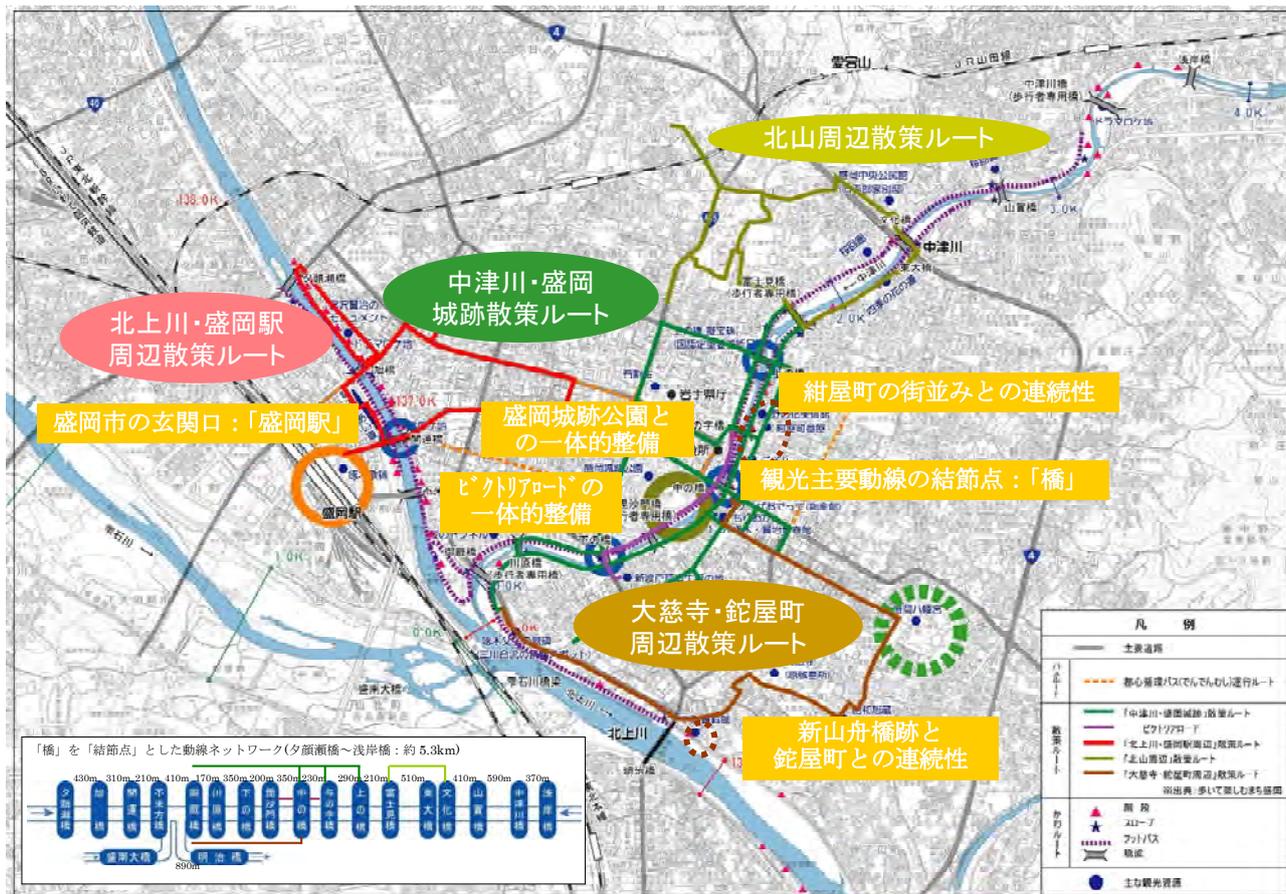
まちづくりに求められる役割

- 歴史・文化資源の保全・活用
 - ・ 歴史的まちなみの保全と水辺との連続性
 - ・ 歴史・文化的資源の保全と連携
- かわを活かした景観まちづくり
 - ・ 河川景観、眺望景観の保全・活用

かわづくりに求められる役割

- 地域とかわとのつながりの再構築
 - ・ 舟橋跡など川との関わりのある地物の保全・活用
- 良好な河川景観の保全・形成（景観計画との連携）
 - ・ 街並みに調和した護岸、散策路等の修景整備

(4) まちとかわとの一体感・連携空間（かわを暮らしの中で活かすために）



鉦屋町の町並み(ござ九)



盛岡城跡公園(中津川)



フットパスの分断箇所(中の橋下流左岸)

地域の身近な自然に触れられる散歩道、まち歩き観光の回遊ルートとして、多様な主体が交流する場となるかわづくり、まちづくりとの連携が求められます。

【かわとまちが連携することにより】

暮らしと観光、多様な利用、活動を支える

- ・ 歩いて楽しいまちにする
- ・ 水辺の安らぎ・憩いの空間を活かす

まちづくりに求められる役割

- 川沿いのまちなみの保全・活用
 - ・ 水辺に顔を向けた空間づくりの推進
- 水辺を活かしたまちづくり・賑わいづくり
 - ・ 盛岡城跡公園と連続した水辺空間の形成
 - ・ 歩行者・自転車道、バスとのネットワーク

かわづくりに求められる役割

- 沿川まちづくりと協調した水辺空間の提供
 - ・ 沿川拠点との一体的水辺空間整備
 - ・ ユニバーサルデザインに配慮した水辺空間整備
 - ・ まちからかわへのアクセス・フットパスの連結

3. かわまちづくり計画の目標像・基本方針(案)

目標像 (案)

盛岡かわまちミュージアム

北上川・中津川と地域住民がともに育んだまちの歴史・文化や、
生命の息吹を感じるかわの自然を大切にし、
地域住民の暮らしの中で、盛岡の魅力を広く知ってもらい身近な交流の場、
そんな「かわ」と「まち」と「ひと」とが共存し続ける水辺づくりを目指します

盛岡市の中心部を貫流する清流北上川・中津川は、岩手山等の山並みを背景に、盛岡城跡公園をシンボルとした重層的な歴史・文化に育まれた街並みの中にあって、地域住民の暮らしの中で身近な自然とのふれあいの場となっています。

この貴重な水辺空間は、豊かな水と緑に象徴される盛岡らしさの源泉であり、地域住民が多様な関わりの中で守り育てることが求められます。その活動を通して盛岡の魅力を情報発信する場となるいわば「博物館」としてとらえ、多様な価値観を共有することのできるフィールドとして更に魅力ある水辺空間へと成長していくことを目指していきます。

盛岡地区かわまちづくりは、かわづくりとまちづくり、それらの連携を支えるひとづくりを目指し、地域住民と広域から訪れる人が多様な交流を推進する舞台となる水辺づくりを推進します。

「かわ」と「まち」、そして「ひと」との良好な関係を構築することを基本理念とし、「**盛岡かわまちミュージアム**」を計画の目標像として、次の4つの基本方針を立案します。

基本方針（案）

①ひと・かわ・まちの連携の再構築



- ◆かわと地域の関係の再認識
- ◆かわに人を誘う情報発信
- ◆かわ、まち、ひとをつなぐ組織形成

②かわとまちの自然環境の保全・活用



- ◆まちの骨格をなす水と緑の連続性確保
- ◆水質の維持・多様な生物の生息・生育環境の維持・保全
- ◆身近な自然に触れられる場の整備

③かわとまちの歴史・景観資源の保全・活用



- ◆かわとまちが調和した景観づくり
- ◆岩手山・愛宕山の眺望確保・視点場整備
- ◆歴史的まちなみ保存と水辺空間との連携

④かわとまちを結ぶ連携空間の創出



- ◆かわとまちが楽しめる歩行空間づくり
- ◆盛岡城跡公園との一体的シンボル空間づくり
- ◆水辺に顔を向けた賑わいのある拠点づくり

安全・安心なかわづくり・まちづくり

- ◆かわづくり、まちづくりの連携強化により、市民の安全な暮らしの確保を推進します
- ◆治水安全度の向上はもとより、護岸等の適正な補修・維持管理を推進します
- ◆水害などの自然災害に備え、防災情報の提供を充実するとともに、防災体制を強化します
- ◆災害時・緊急時において、市民が安全に避難できる場所、経路の確保に努めます

4. 施策方針(案)

かわまちづくり計画の推進に向けた施策の方向性、考え方を施策方針(案)として整理しました。

また、盛岡地区かわまちづくり懇談会において出された意見を抽出整理しました。具体的施策に向けた検討・議論を継続しながら、市民とともに実現可能な施策を推進していきます。

1. ひと・かわ・まちの連携の再構築

1) かわでの市民活動の促進

市民参加によるかわづくり、まちづくりを議論する場を提供し、地域住民が情報を発信・共有する活動へ展開の促進を支援します。

2) かわの魅力を伝える情報発信

水辺空間での市民活動を支援し、情報発信の新たな拠点づくり、担い手づくりを支援します。

3) 多様な参画の仕組みづくり

水辺の自然環境、学習の場、散策の場など日常の身近な生活の中から参画可能なつながりを持たせる雰囲気づくり、仕組みづくりを展開します。

4) イベントによる利用機会提供

現状で実施されている水辺での各種イベントの活性化によって、より多くの市民参加、利用機会を目指します。

【懇談会で出された主な意見】

- ・多様な意見を聞きながらかわづくり、まちづくりを進める必要がある
- ・野の花美術館を中津川の情報発信基地として盛り上げていきたい。
- ・中津川は盛岡市民の財産。これを知らしめて誇りをもつことが大切である。
- ・議論する場がかわまちづくりを実現するための活動の場となることが望まれる。
- ・子育て支援の団体と連携して、子供を川で遊ばせたい。お母さんを川に呼びたい。
- ・上の橋、中の橋架橋 400 年の記念行事をやってみたい。
- ・河原の草刈が十分ではない。日常的な管理を市民団体が担うことは可能だと思う。

2. かわとまちの自然環境の保全・活用

5) 自然環境保全の推進

水辺の自然環境の維持保全を図るため、自然環境に関する情報共有を図り、市民と共に管理できる体制を整えます。

6) かわを学べる水辺空間づくり

水辺空間の多様な自然環境を観察し、学習することのできる水辺空間の創出を図ります。

7) 河道内樹林の適正な管理

治水安全度の確保を前提に、市民との協力、連携のもと河道内樹林の適正管理を進めます。

8) 河道内の植栽・管理体制づくり

河原に生息する植生、河原への植栽・管理方法について、市民の理解のもとで、市民の協力が持続可能な維持管理体制を構築します。

【懇談会で出された主な意見】

- ・多様な生物が生息・生育していることが、重要な存在価値であることを基本的認識とすべき。
- ・川には極力手を加えないで、そのままであってほしい。
- ・浅岸橋下流にサケの産卵場がある。遊歩道など少し手を加えれば、良い場所になる。
- ・魚がすめる環境を維持してもらいたい。
- ・ワスレナグサ、カキツバタ、ミズバショウなど野の花が咲くようにしたい。また維持管理が必要である。
- ・自然環境に関する調査・研究を続けてほしい。

3. かわまちの歴史・景観の保全・活用

9) まちの歴史を活かした水辺づくり

盛岡城を拠点として、歴史のある街並みや歴史的地物と連携した水辺の一里塚となる空間づくりを目指します。

10) 橋詰・橋上の視点場づくり

中津川三橋等の歴史的資源を活かし、橋上または橋詰からの岩手山や愛宕山の眺望景観を楽しむことのできる溜り空間、案内サイン整備の推進を図ります。

11) 街並みと調和した護岸補修・整備

北上川・中津川で連続している石積護岸の維持、保全を図ります。また、街並み景観と調和した石積護岸への改築を推進します。

12) 景観保全・形成の実施体制づくり

盛岡市景観計画との連携、調整を図りながら、良好な景観軸としてその保全、形成を目指し、河川沿川の街並み、河川内の景観づくりの方針、実施体制づくりを目指します。

【懇談会で出された主な意見】

- ・盛岡の古い町並みが川のそばにあれば良い。
- ・明治橋下流に船橋の再現が望ましいが、管理が大変なので木造橋時代の再現があっても良い。
- ・鉾屋町、舟橋、南の玄関口であったという歴史を生かして、親水性のある水辺としたい。
- ・伊能忠敬、菅江真澄など歴史上の人物を活かしてアピールすべきである。
- ・河川は景観計画の中で景観重要公共施設として位置づけることを想定している。

4. かわとまちを結ぶ連携空間の創出

13) 水辺の遊歩道の整備

川の中の遊歩道(フットパス)の未整備区間を連続延伸し、まちなか観光ルートと連携させることにより、水辺空間を活かした重層的な周遊ルートの形成を図ります。

14) まちと川とを結ぶアクセス整備

水辺空間へのアクセスとして、階段、スロープの整備を推進します。また、バリアフリーに配慮した構造、施設整備を図ります。

15) 河川利用拠点の整備

盛岡城跡公園のまちづくり事業と連携し、水辺空間との一体的空間を形成することによる魅力向上を図ります。また、オープンカフェ等の賑わいの場を創出し、盛岡城跡公園との一体的利用による交流拠点の形成を目指します。

16) サインシステムの設置

散策利用、観光でのまち歩き利用の推進、サービス向上を目指し、まちと川との共通案内サイン計画の立案、事業化を図ります。

17) 川とまちの連携空間の創出

市民との連携により、河川沿川の未利用地や、空き家等との一体的な水辺空間利用により、魅力ある空間づくりを目指します。

【懇談会で出された主な意見】

- ・たくさん橋がある。橋を巡って歩くことも楽しいと思う。
- ・散策路、まちから河川に入っていくアクセスを改善していけばよい。
- ・自転車利用は、マナーを守れば川に入ってもよいと思う。
- ・川の中にベンチ、飛び石があればよい。
- ・盛岡城跡公園との一体化。川と公園の間の休憩スポット、景観づくりが必要である。
- ・川を表にしたまちづくり、オープンカフェの恒久化が望まれる。
- ・紺屋町の空き店舗の活用によって中津川とまちが連携できる。
- ・川沿いの駐車場は、景観的にマイナスなので、くつろぐスペースなどで魅力的にしたい。
- ・アートが必要ではないか。彫刻が増えればよい。

5. 役割分担とスケジュール(案)

施策方針(案)	施策の方向・主な整備施設イメージ
1. ひと・かわ・まちの連携の再構築	
1) かわでの市民活動の促進	・WS、オープンハウス等での議論の場、意見収集の場の提供
2) かわの魅力を伝える情報発信	・市民団体活動の場・情報発信基地としての場の提供
3) 多様な参画の仕組みづくり	・情報発信地・交流拠点としてのPR・活動支援 ・子育てに川を活かす仕組みづくり
4) イベントによる利用機会提供	・現状の各種イベントの推進・情報発信による活性化
2. かわとまちの自然環境の保全・活用	
5) 自然環境保全の推進	・自然環境の情報共有と管理体制の構築
6) かわを学べる水辺空間づくり	・浅岸橋付近のサケ産卵場周辺の整備 ・学べる水辺空間の創出
7) 河道内植生の適正な管理	・河道内樹林の管理
8) 河道内の植栽・管理体制づくり	・河原植生の管理 ・植栽方法等のルール・協定づくり
3. かわまちの歴史・景観の保全・活用	
9) まちの歴史を活かした水辺づくり	・先人たちの歴史を伝える場づくり
10) 橋詰・橋上の視点場づくり	・「橋」を活かした散策ルートづくり(たまり場・休憩施設等)
11) 街並みと調和した護岸の維持・補修	・コンクリート護岸の補修・修景整備(合流点～明治橋下流)
12) 景観保全・形成の実施体制づくり	・川沿いの古い街並みの保全と景観形成方針 ・河川・水辺空間の景観づくり方針
4. かわとまちを結ぶ連携空間の創出	
13) 水辺の遊歩道の整備	・フットパスの延伸整備
14) まちと川とを結ぶアクセス整備	・川へのアクセス整備 ・バリアフリー坂路の整備・改良 ・街並み環境整備との連携による動線確保(川へのアクセス)
15) 河川利用拠点の整備 (例：盛岡城跡公園との一体的整備)	・歴史文化施設との一体的水辺空間整備 ・盛岡城跡公園との一体的休憩・オープンカフェ等の整備 ・ビクトリアロードの修景整備
16) サインシステムの設置	・統一サインの整備(河道内・まちなか観光ルート)
17) 川とまちの連携空間の形成	・沿川未利用地等を活用した水辺に顔を向けた水辺空間整備

優先度

早期：盛岡市が実施している各種まちづくり事業との連携により、早期整備を図ることが望まれる施策（リーディングプランとして、かわまちづくり事業の先導的役割を果たす施策）

役割分担(案) ●：対応主体 ○：協力主体

今後の検討により変更する場合があります、確定したものではありません。

取組みの優先度など	役割分担(案)		
	市民・NPO (民間)	盛岡市	国交省
かわまちづくりを推進する	●	○	○
街並み環境整備(H20～29)と連携して推進する	○	○	●
歩いて楽しむまち盛岡(H21～26)を推進する	○	●	●
	○	●	●
	○	●	●
街並み環境整備(H20～29)と連携して推進する	○	●	○
お城を中心としたまちづくり(H21～25)と連携して推進する	○	●	●
	●	●	●
	○	●	○

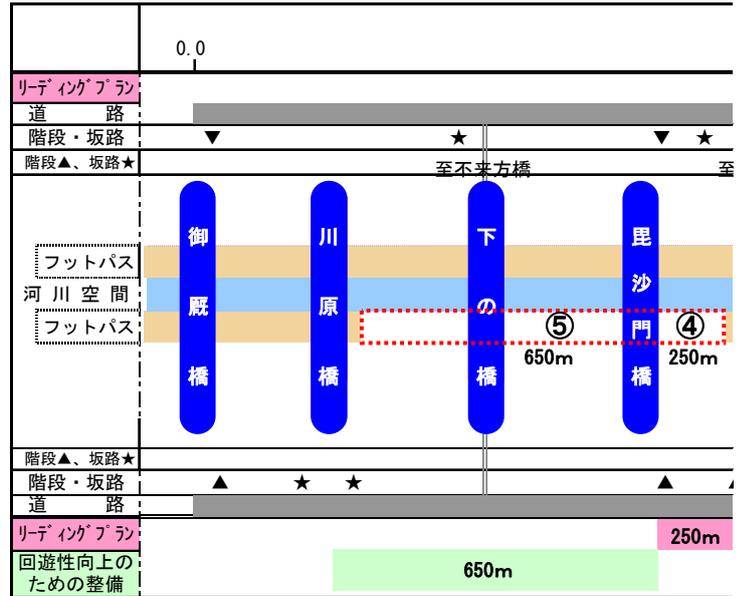
(参考) リーディングプランイメージ ■ 13) 水辺の遊歩道の整備案

【整備方針(案)】

盛岡市内の既存まちあるきルートや、歩いて楽しむまち施策との連携を図ることで、川の中を歩く回遊ルートの形成を図ります。

	現況 (L=3,800m)	リーディング プラン	回遊性向上の ための整備
右岸	3,300m 86.8%	250m 100% 中津川下流～ 浅岸橋(右岸)	—
左岸	1,400m 36.8%	250m 43.4% 中の橋～昆沙 門橋	2,150m 100%

今後の検討により変更するものであり、確定したものではありません。



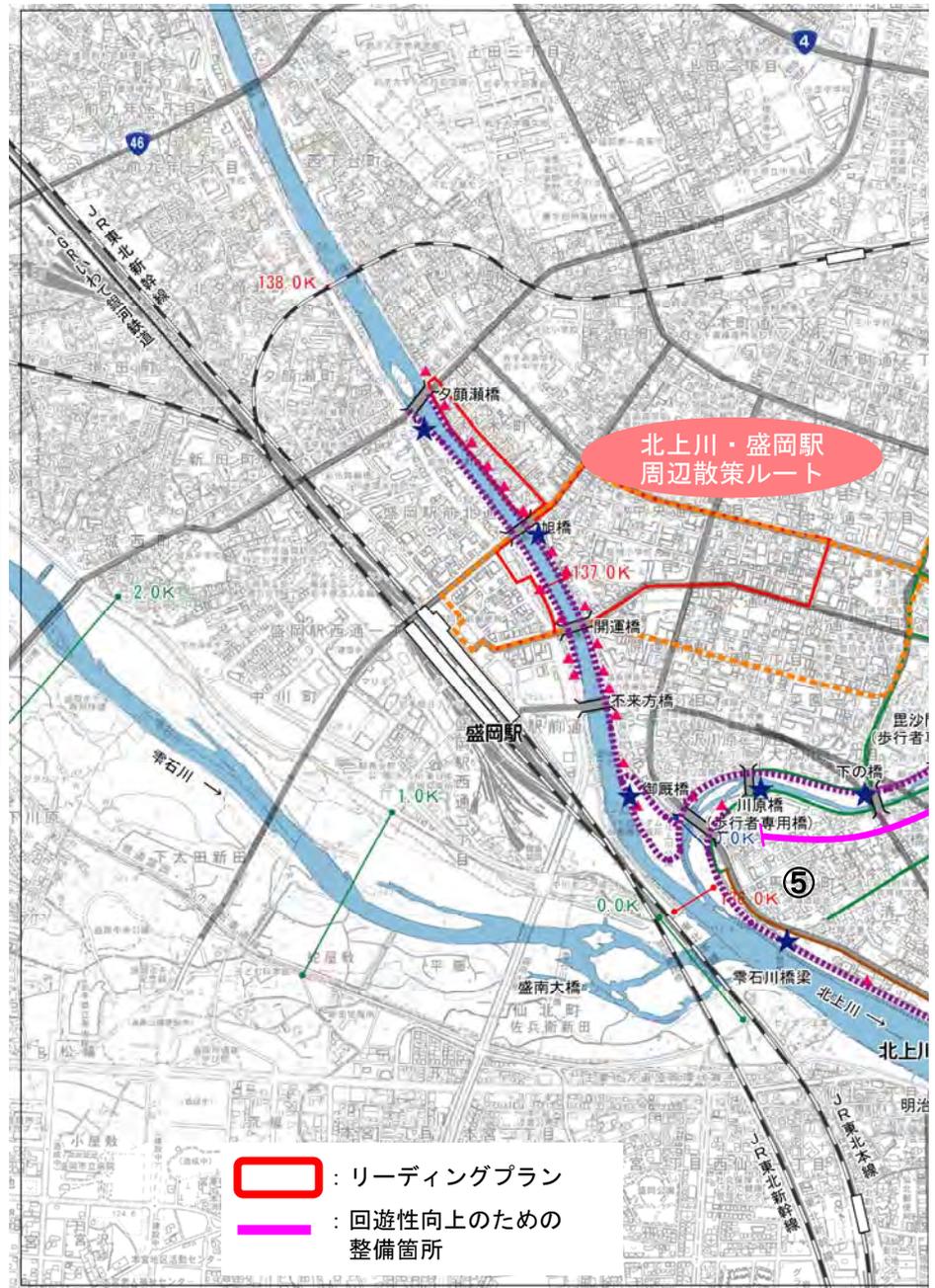
昆沙門橋左岸上流



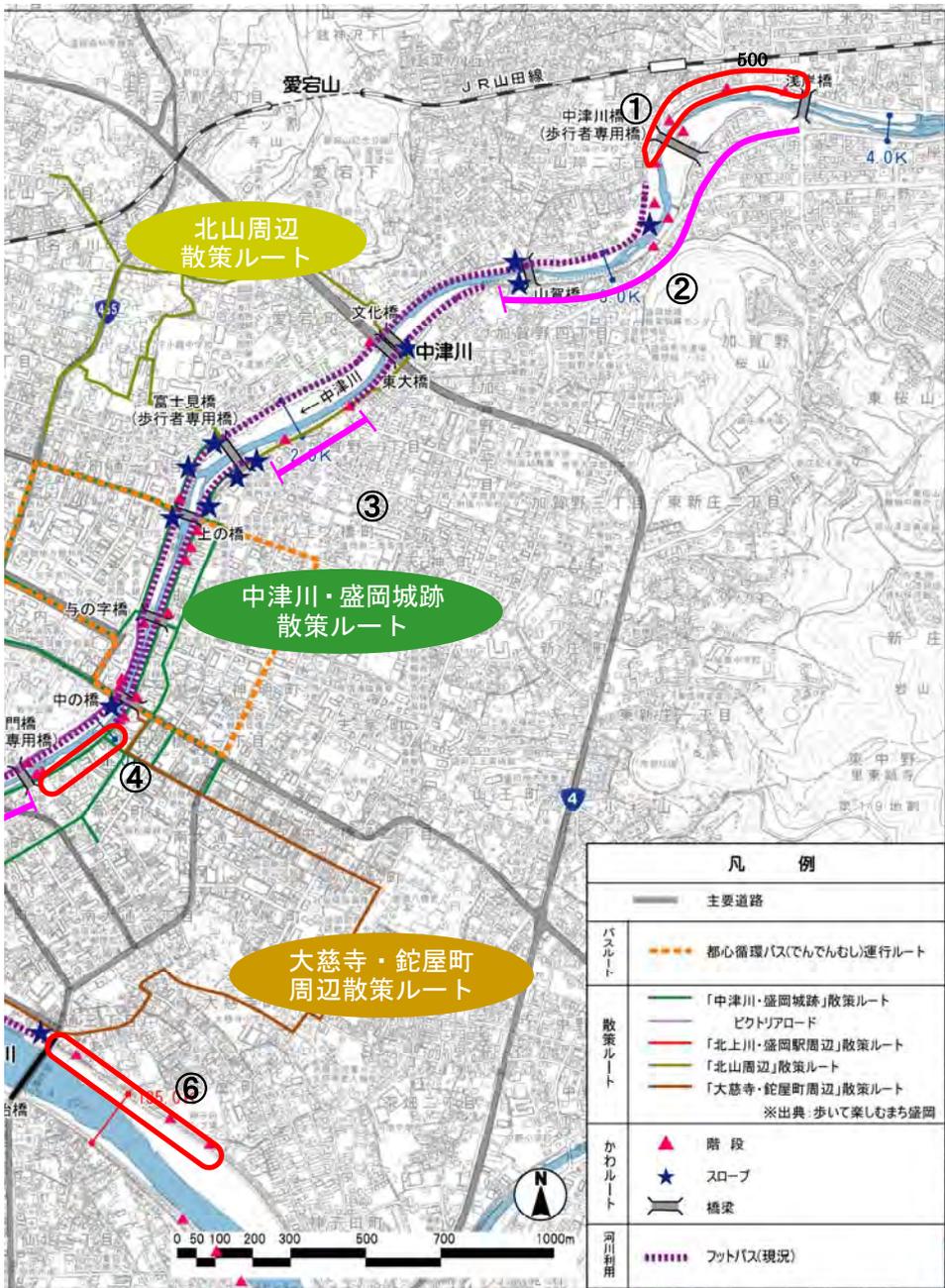
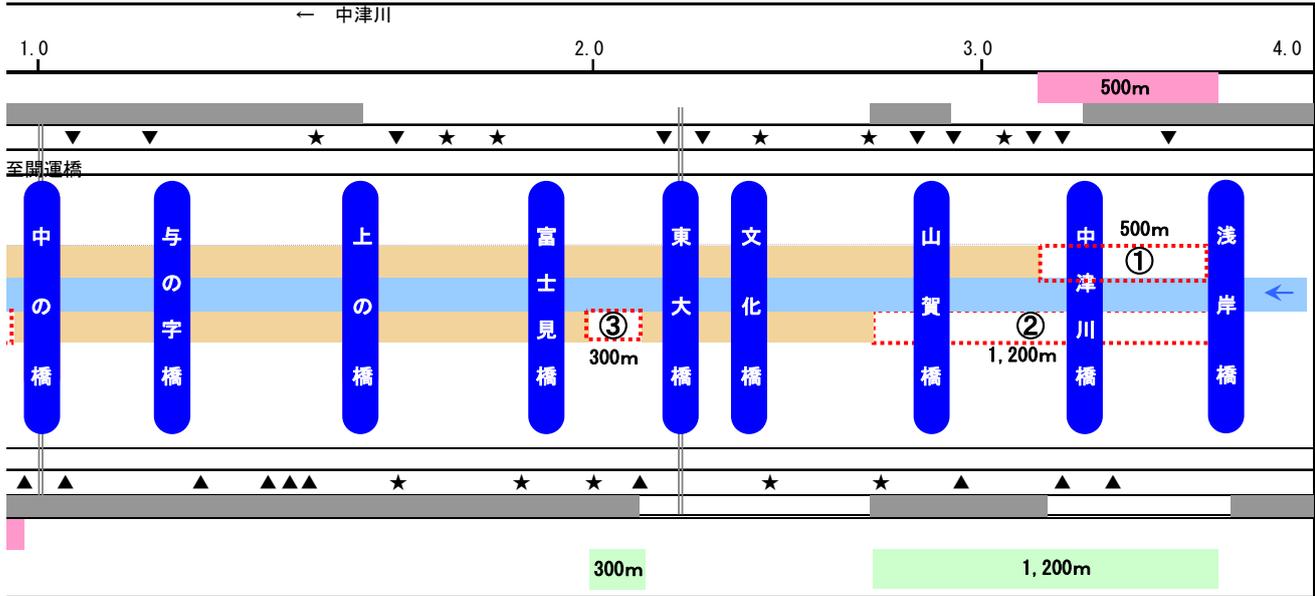
昆沙門橋左岸下流



明治橋左岸下流



中津川のフットパスの現状と整備方針(案)



浅岸橋下流

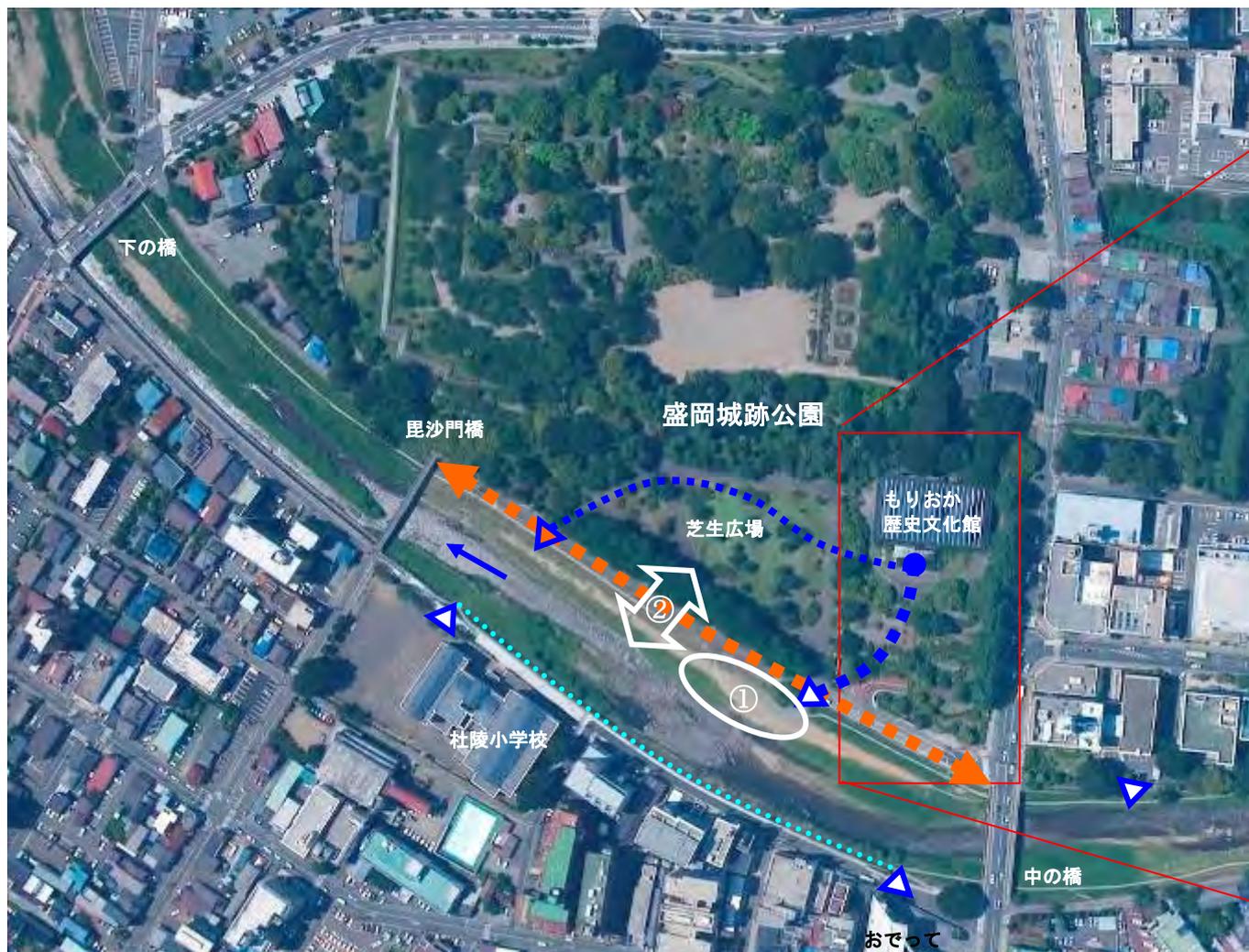


中津橋左岸下流



富士見橋左岸上流

リーディングプランイメージ ■ 15) 河川利用拠点の整備整備案



基本方針：盛岡城跡公園との一体的空間整備

-  : 水辺へのアクセス既存階段・スロープ (既存)
-  : 水辺へのアクセス既存階段・スロープ (計画)
-  : ヴィクトリアロード(第I期)
-  : 左岸(中の橋～毘沙門橋)遊歩道
-  : 水辺の多目的広場(親水空間)
-  : 盛岡城跡公園と水辺との一体的空間の形成
 - ・水辺まで見通しの良い空間づくり
 - ・護岸の一部緩傾斜化による一体感の形成
 - ・水辺を眺める休憩スペースの再配置
 - ・オープンカフェ(社会実験)によるにぎわい空間の創出

ビクトリアロード整備事業 舗装修景イメージ



整備イメージ図(石畳)



現況

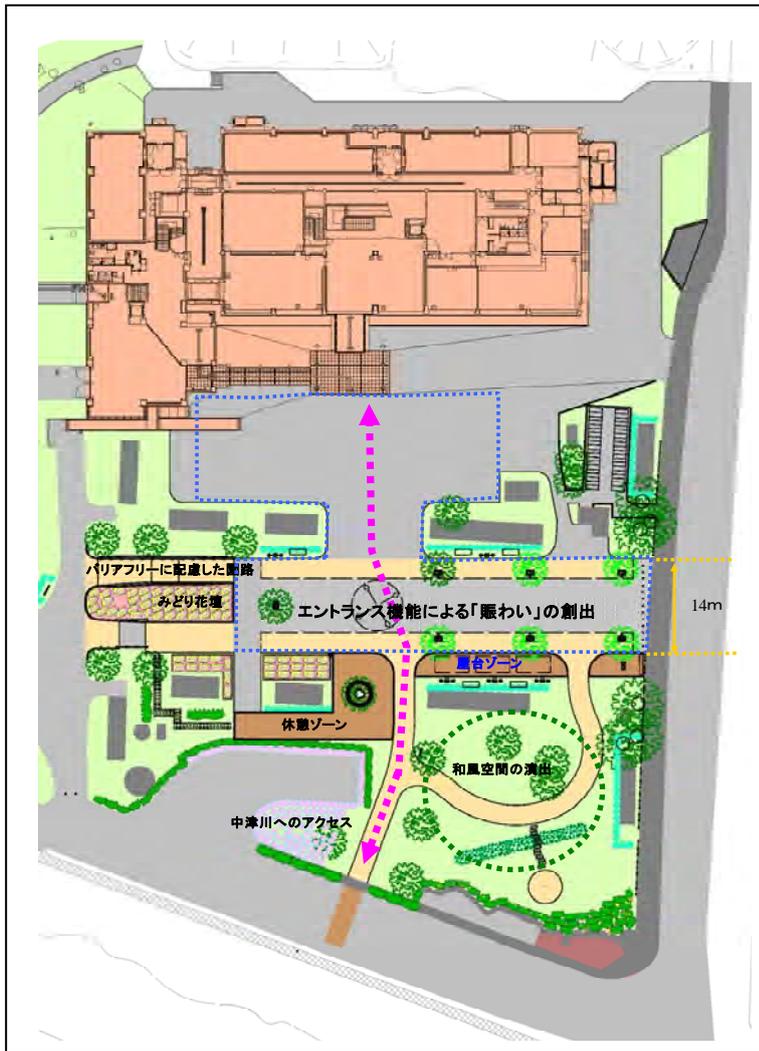
舗装修景整備
休憩施設・サイン
植栽・照明施設整備等



中の橋下流河川敷での
オープンカフェ(社会実験)



もりおか歴史文化館整備事業 前庭整備イメージ



もりおか歴史文化館

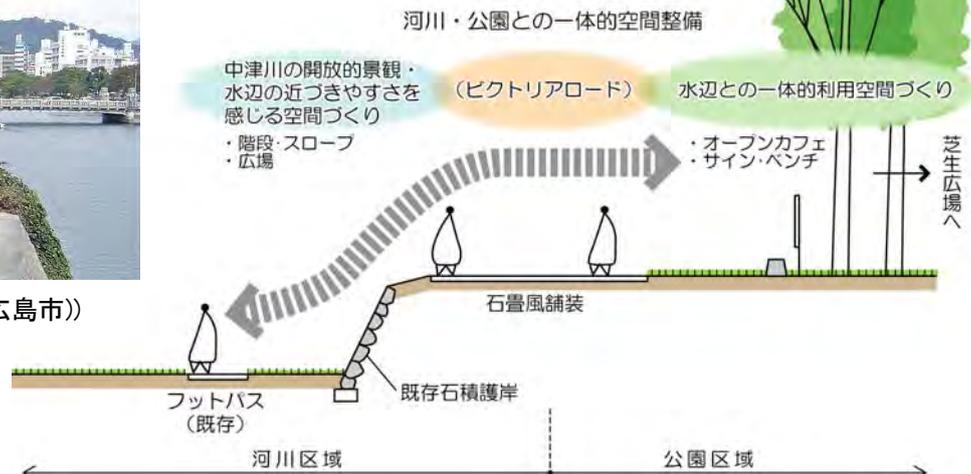
【整備方針(案)】

盛岡城跡公園の芝生広場との一体的空間を図るため、既設石積護岸の連続性を保ちながら、一部区間で階段やスロープなど連続性のある空間の形成を図ります。

そのため河川区域と公園区域の境界部に位置するビクトリアロードは、河川・公園の施設配置と一体的に配置します。また、公園区域を示す役割を果たしているユリノキの林床を川をながめる休憩空間や、サイン、照明施設を再配置します。



オープンカフェの整備事例(京橋川(広島市))

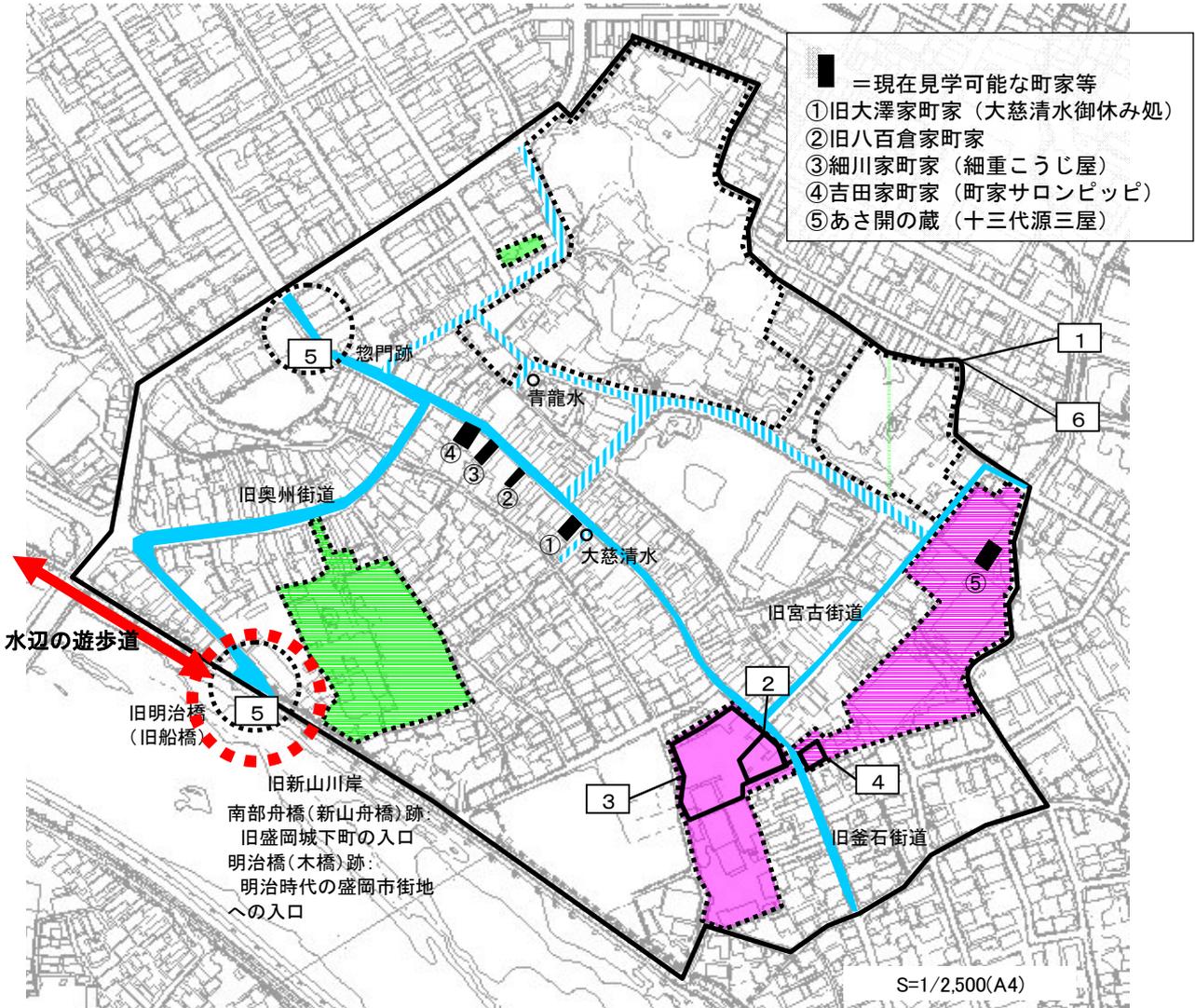


リーディングプランイメージ ■ 11) 街並みと調和した護岸の維持・補修
14) まちと川とを結ぶアクセス整備

盛岡の暮らし文化の中で独自の建築様式が編み出された伝統的な盛岡町家が連なる城下町の入口にある懐かしい街道沿いの風情ある街並みを再現させ、地域住民や都市観光客が盛岡の暮らし文化を体感しながら楽しめる地域として街並み環境を整備することを目標とする。

【整備方針図】

区域名：鉾屋町・大慈寺町界隈地区



■ その他大臣が認める施設 案内板等 整備事業区域全域
 [5] =歩いて楽しむ都市観光の推進にあたって、地区に不足している、観光資源と休憩施設（トイレ等を含む）案内板を設置する。

- =街なみ環境整備事業整備区域，街なみ環境整備促進区域
- ⋯ =旧岩手川，旧三原家，あさ開を結ぶ交流集会エリア
- ⋯ =寺の下寺院郡・円光寺地区：落ち着いた・いやしのエリア
久昌寺（新渡戸稲造家の墓所），大慈寺（原敬の墓所），円光寺（米内光政墓所）など九つの寺院が並ぶ寺の下寺院郡を先人を偲ぶ「落ち着いた・いやしのエリア」とする。
- =歴史的街並みの保存及び活用を図るため建築物等の修景を行う。
- =旧街道（奥州，宮古，釜石）の沿線街並みの建築物等の修景及び歩行者にやさしい道路整備と美装について検討する。
- =寺の下の路の沿線街並みの建築物等の修景及び歩行者に優しい道路整備と美装について検討する。

○水辺の遊歩道の整備・かわへのアクセス整備(イメージ)



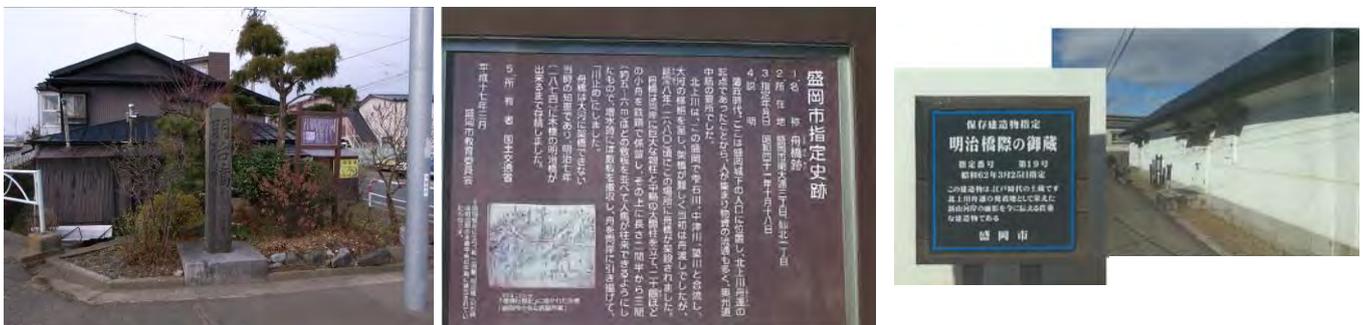
明治橋上下流の連続性、鉦屋町を結ぶ歩行環境の形成



まちに安全にアクセスできる階段・スロープの整備

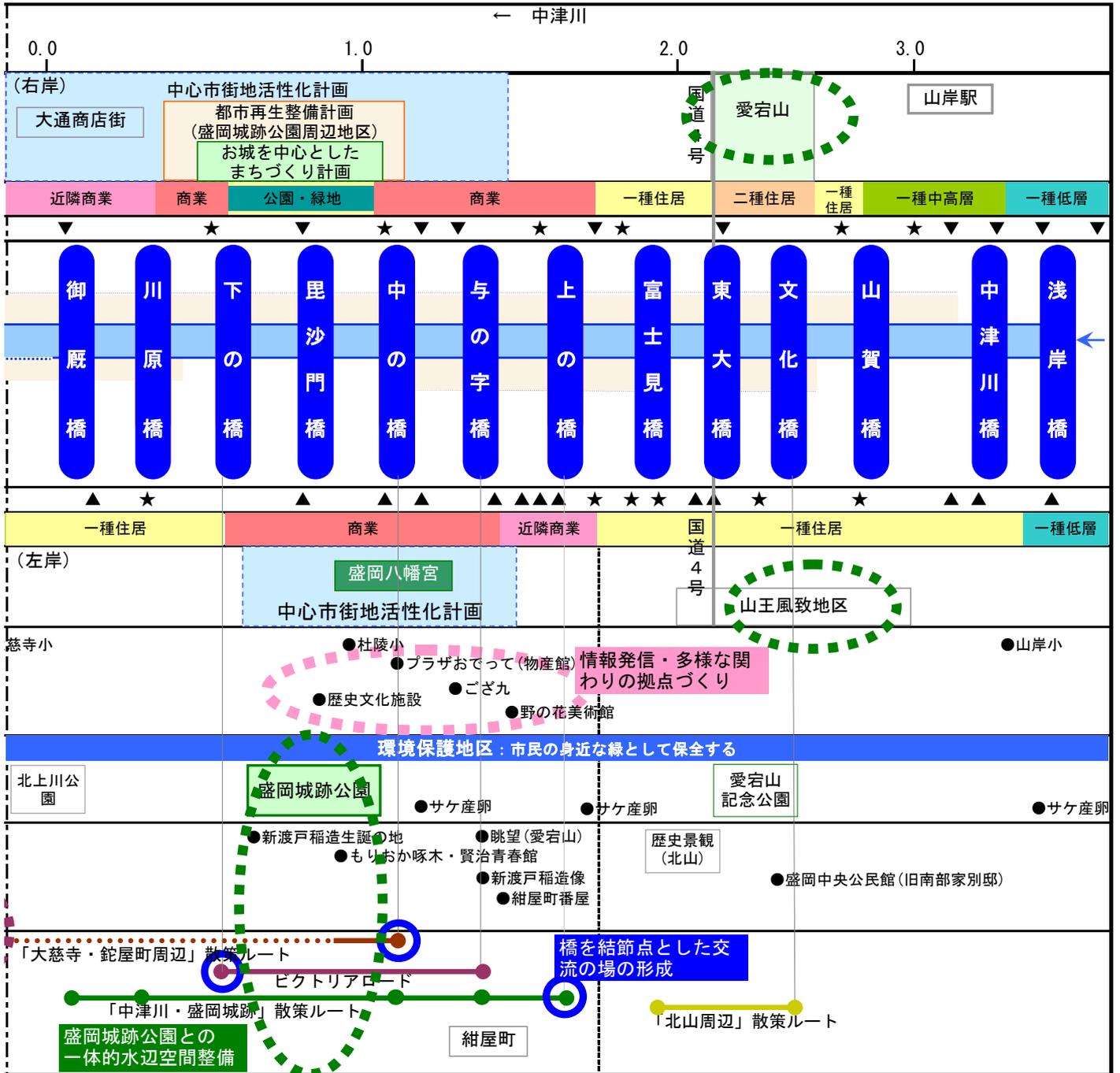
街並みと調和した護岸の維持・補修

○明治橋の面影を残す空間づくり(休憩スペース等)



○北上川でのイベント「舟っこ流し」





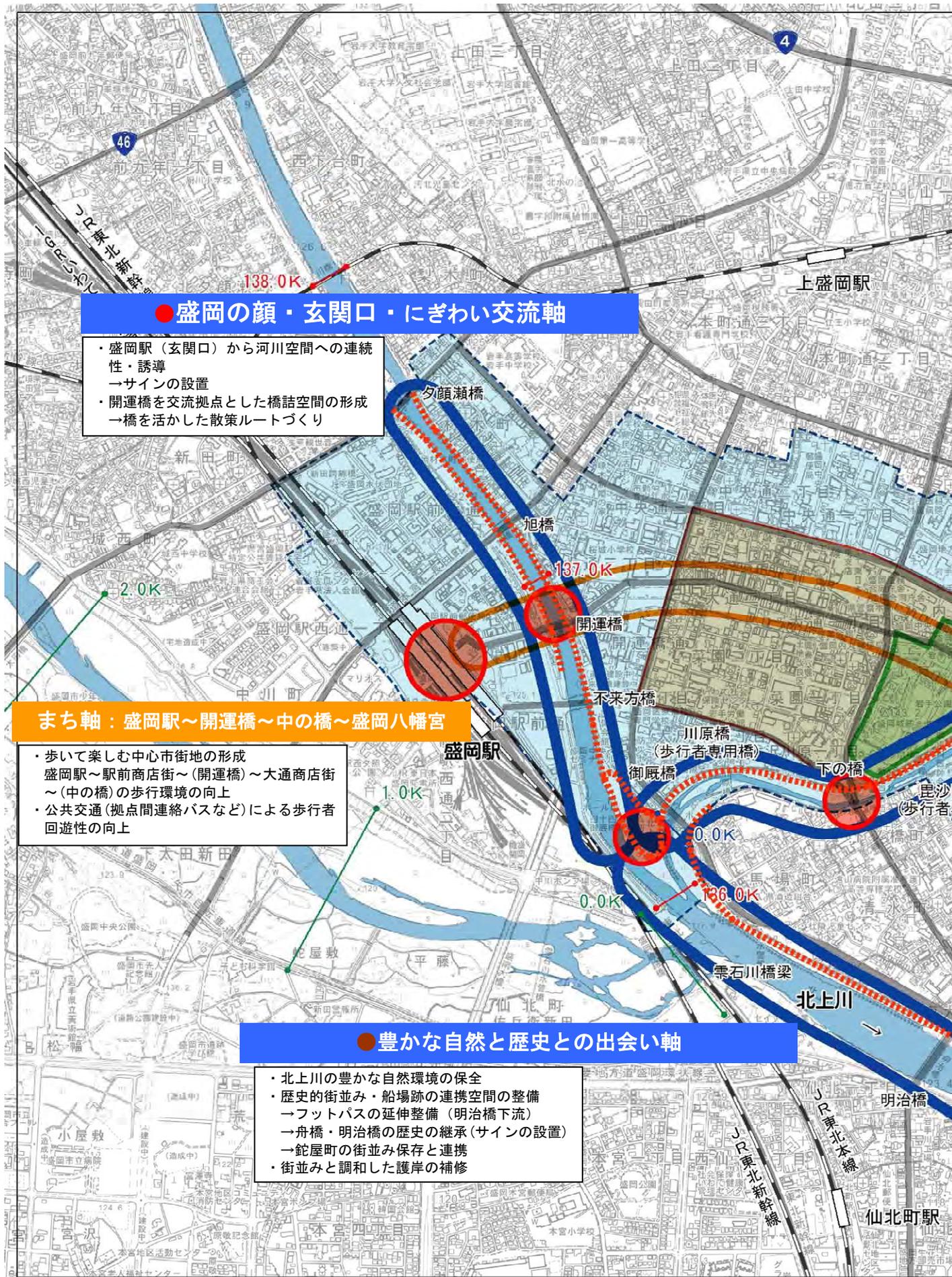
●上の橋～三川合流点
盛岡城跡公園との一体感とまち歩き観光のシンボル軸

- ・水辺イベントのメッカ・情報発信拠点
 →野の花美術館等を活用した情報発信・市民の活動の場の創出
 →子育てに川を活かす仕組みづくり
- ・都市～水辺ネットワーク（まち軸とかわ軸）の結節拠点
 →橋を活かした散策ルートづくり
 →フットパスの延伸整備（中津川左岸：中の橋下流～川原橋）
 →サインの設置
- ・盛岡城跡公園の中心性を活かした水辺の拠点づくり
 →公園と一体となった休憩スポットづくり
- ・観光交流拠点づくり
 →沿川駐車スペースの空間利用
 →紺屋町の空き店舗との連携

●浅岸橋～上の橋
市民の身近な水辺空間ネットワーク軸

- ・緑豊かな住宅市街地の中の身近な水辺環境の保全
 →浅岸橋付近のサケ産卵場の周辺の整備
- ・愛宕山、桜山の身近なランドマークとの連携
 →フットパス延伸整備（中津川橋～浅岸橋）
 →サインの設置

●施策方針の展開イメージ図(区間別特性格施策案)



●盛岡の顔・玄関口・にぎわい交流軸

- ・盛岡駅(玄関口)から河川空間への連続性・誘導
→サインの設置
- ・開運橋を交流拠点とした橋詰空間の形成
→橋を活かした散策ルートづくり

まち軸：盛岡駅～開運橋～中の橋～盛岡八幡宮

- ・歩いて楽しむ中心市街地の形成
盛岡駅～駅前商店街～(開運橋)～大通商店街～(中の橋)の歩行環境の向上
- ・公共交通(拠点間連絡バスなど)による歩行者回遊性の向上

●豊かな自然と歴史との出会い軸

- ・北上川の豊かな自然環境の保全
- ・歴史的街並み・船場跡の連携空間の整備
→フットパスの延伸整備(明治橋下流)
→舟橋・明治橋の歴史の継承(サインの設置)
→鉾屋町の街並み保存と連携
- ・街並みと調和した護岸の補修

●市民の身近な水辺空間ネットワーク軸

- ・緑豊かな住宅市街地の中の身近な水辺環境の保全
→浅岸橋付近のサケ産卵場の周辺の整備
- ・愛宕山、桜山の身近なランドマークとの連携
→フットパス延伸整備(中津川橋～浅岸橋)
→サインの設置

●盛岡城跡公園との一体感とまち歩き観光のシンボル軸

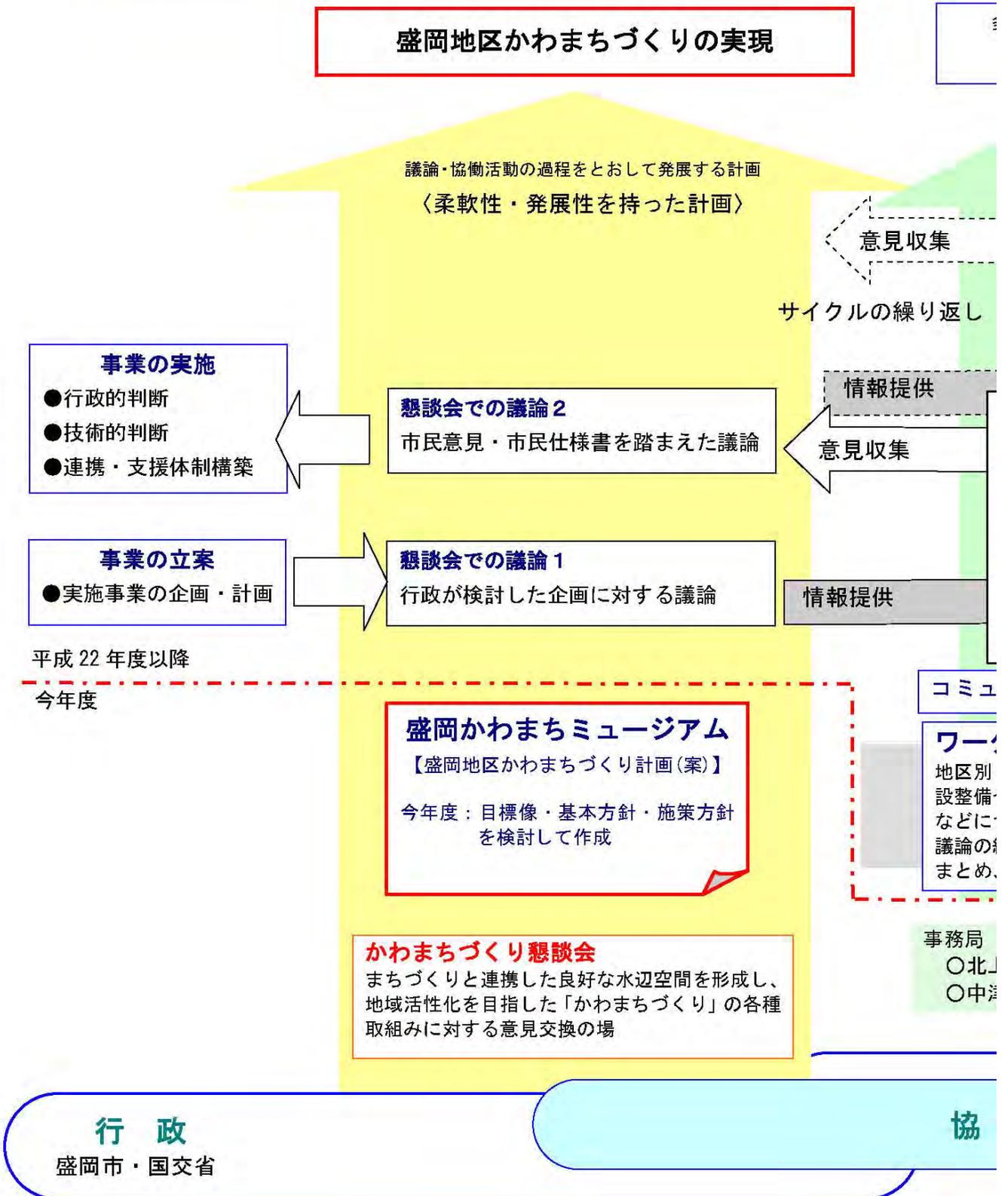
- ・都市～水辺ネットワーク(まち軸とかわ軸)の結節拠点
- ・水辺イベントのメッカ・情報発信拠点
→野の花美術館等を活用した情報発信・市民の活動の場の創出
→子育てに川を活かす仕組みづくり
→橋を活かした散策ルートづくり
→フットパスの延伸整備(中津川左岸: 中の橋下流～川原橋)
→サインの設置
- ・盛岡城跡公園の中心性を活かした水辺の拠点づくり
→公園と一体となった休憩スポットづくり
- ・観光交流拠点づくり
→沿川駐車スペースの空間利用
→紺屋町の空き店舗との連携

凡 例		
	かわ軸	
	まち軸	
	結節拠点	
	都市再生整備計画区域	
	中心市街地の区域	
	街なみ環境整備促進区域	
	お城を中心としたまちづくり計画の区域	
まちづくり		フットパス
		主要都市計画道路
かわルート		フットパス
		主要都市計画道路

今後の進め方について

社会や市民ニーズ・多様な関わりに柔軟に対応できる計画策定・事業推進ス

盛岡地区かわまちづくりの実現



スタイル

- 1 「計画・実行・点検・見直し」のプロセスを推進
- 2 情報発信・意見集約
- 3 多様な意見集約の場、活動の場を用意・支援し、意見の反映の過程の見える化

多様な主体の参加による実践
〈担い手に発展〉

多様化するニーズ・変化に柔軟な対応する計画策定・事業推進スタイル

- 1 「盛岡地区かわまちづくり懇談会」は今後も継続し、マネジメントサイクルによって「かわまちづくり計画(案)」を発展させます
- 2 次年度は、本年度の「かわまちづくり計画(案)」について、広く市民の意見を聞くパブリックコメント、現地でかわまちづくりをPRしながらアンケート(例えばオープンハウス等)するなど広く意見を聞く機会を設置します
- 3 具体的な施策や区間別・テーマ別施策を議論する場としてワークショップ(W S)を設置し、市民仕様書として懇談会に提言し、かわまちづくりを推進します

市民仕様書 (発案・提言)

施策の内容によってはWSを設けて、意見・アイデアを募る
議論の結果を市民からの仕様書としてまとめる

市民意見収集

一般市民の意見を聞く機会を設ける

コミュニケーション手法(情報提供と意見収集): 事業の性格に適した手法を選択して、実施する

ワークショップ

「かわまちづくり事業別に具体的な施策や市民の参画・役割分担のあり方」について議論する場
議論の結果を「市民仕様書」としてとりまとめ、懇談会に提言します。

オープンハウス

公共空間(例えばおでっ等)で計画内容を説明し、アンケートを実施し、一般市民の意見を聴取する場

イベント・社会実験

北上川・中津川で実施するイベント、または社会実験を通じてアンケートを実施し、意見を聴取する場

アンケート・

パブリックコメント
盛岡市、国土交通省のホームページ、広報誌等により公表し、意見を集約

(案)

北上川(三川合流点～明治橋下流)
中津川

働・連携

市民・市民団体

盛岡地区かわまちづくり懇談会

(平成 22 年 3 月現在)

盛岡地区かわまちづくり計画(案)は、関係する地域の商工観光関係者、河川利用関係者、市民活動関係者、学識経験者、行政機関で構成される「盛岡地区かわまちづくり懇談会」を平成 21 年 8 月に設置し、盛岡中心部を流れる北上川、中津川の観光資源としての活用、沿川におけるまちづくりと連携した良好な水辺空間を形成することで、賑わいの創出、観光の推進、地域活性化を図るための各種取り組みに対して意見をいただいて作成したものです。

盛岡地区かわまちづくり懇談会のメンバー(五十音順、敬称略)

氏名	所属等
〔座長〕 うみた てるゆき 海田 輝之	岩手大学 工学部 教授
おがさわら としのり 小笠原 敏記	岩手大学 工学部 准教授
きんの まり 金野 万里	NPO 法人 いわて景観まちづくりセンター 理事
くらばら むねたか 倉原 宗孝	岩手県立大学 総合政策学部 教授
さかい しげき 堺 茂樹	岩手大学 工学部長
たかはし さとし 高橋 智	おもてなしプラザ運営協議会 事務局長
てらい よしお 寺井 良夫	NPO 法人 もりおか中津川の会 理事
なかむら ただし 中村 正	岩手県自然保護協会 事務局長
にいぬま あつし 新沼 篤	盛岡商工会議所 地域振興チーム チームリーダー
ば ば ようこ 馬場 洋子	盛岡商工会議所 女性会 副会長
ふじわら えり 藤原 英里	盛岡青年会議所
(行政)	
さとう みつひこ 佐藤 光彦	盛岡市 商工観光部長
にいぬま まさひろ 新沼 正博	盛岡市 都市整備部長
こん ひでと 今日 日出人	国土交通省 東北地方整備局 岩手河川国道事務所長
(オブザーバー)	
にしお たかと 西尾 高登	岩手県県土整備部 都市計画課 まちづくり担当課長

